

国立看護大学校で入学式、25周年記念式典を開催しました

若葉が美しい春爛漫の4月9日、国立看護大学校において入学式ならびに25周年記念式典が開催されました。

入学式に続いて行われた25周年記念式典では、秋篠宮皇嗣妃殿下にご臨席を賜り、25周年を祝うとともに在学生や関係者への励ましを込めたおことばをいただきました。また、式典終了後には、大学校の関係者のお見送りを受けられ、その場においても親しくお声がけをいただきました。



秋篠宮皇嗣妃殿下おことば

国土理事長は式辞で、「国立看護大学校は平成13年の開設以来、政策医療を支える看護人材の育成に一貫して取り組み、設置主体の移行を経て、令和7年には国立健康危機管理研究機構の一員として、新たな歩みを進めている。教育・研究・国際協力を通じ、感染症や災害対応でも活躍する人材を輩出しており、今後も国民の期待に応える看護教育を推進していく所存」と述べました。

ご来賓の神谷厚生労働大臣政務官からは、「国立看護大学校は2001年の開校以来、高度な実践力・研究力・国際性を備えた看護人材を育成し、2,136名の卒業生を輩出してきました。2040年を見据えた医療課題や感染症危機管理を背景に、今後も我が国の医療水準向上に資する役割が期待されています」との祝辞をいただきました。

また、本学の運営に対し多大なる貢献をい

ただいた蒼穹(おおぞら)会様および長谷川清司様ご夫妻に、感謝状を贈呈しました。

入学式では、看護学部第26期生112名、研究課程部前期課程第22期生・後期課程第12期生合わせて8名の計120名が入学し、萱間大学校長は式辞で、「国立看護大学校は2001年、政策医療を担う看護人材の育成を目的に設立され、ナショナルセンター等と連携し、最新の知見に基づく教育を行っている。学生の寄り添う姿勢に看護の本質を見出し、支え合いながら清瀬の自然豊かなキャンパスで充実した学生生活を送ることを願っている。」と述べました。

新たに看護の道を志す入学生を迎えるとともに、本学が歩んできた25年の歴史を振り返り、これまで支えてくださった多くの方々への感謝と、次代を担う看護職者の育成に向けた決意を新たにする一日となりました。



国土理事長25周年記念式典式辞



神谷政務官25周年記念式典祝辞



萱間大学校長入学式式辞